

# 施設紹介

## 地域医療を支える総合医・家庭医を地域ぐるみで育てよう!

### 千葉県立病院群・総合医家庭医養成コース「わかしお」の紹介

古垣 齊 拓

千葉県立東金病院 内科医長・地域医療連携室室長

#### 【はじめに—NHK・ETV 特集より】

千葉県立東金病院（60床）は千葉県・九十九里沿岸部の山武地域（人口約25万人、病院7カ所、診療所90カ所）にある（表1・2）。当院の地域で医師を育てる取組みは2008年7月6日にNHK・ETV 特集で放映されるなど、医療再生への処方箋として全国の医師不足に悩む病院関係者の注目を集めている。

今回はこの地域ぐるみで総合医・家庭医を育成する取り組みの概要を紹介する。

#### 【千葉県・山武地域における医療の惨状と再生】

千葉県のなかでも九十九里沿岸部は人口10万

人あたりの医師数は約90人であり、医療過疎といっても過言ではない（表3）。またこの地域には公的病院である国保成東病院（350床）、町立大網病院（100床）、および東金病院があり、医師研修義務化前の2003年には3つの公的病院に常勤の内科医合計28名が在籍していた。この公的病院群は地域の中核病院であるが、研修義務化後の医師の大量退職により2006年4月には内科医合計8名とピーク時の3分の1以下となった（表4）。2003年に内科医11名（病院全体の常勤医21名）が在籍していた東金病院も多くの医師が退職し、2006年前期には内科医師2名（院長を含む、病院全体の常勤医11名）まで落ち込み、救急医

表1

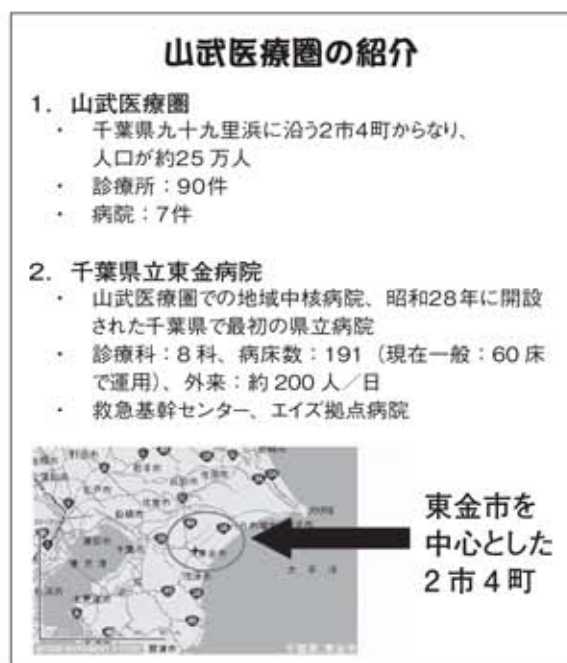


表2



## 施設紹介

療など地域の医療を維持できない状況に陥った<sup>①</sup>。さらに病床数と病院職員数が削減された(2005年の191床から2008年には60床へ)。しかし東金病院や地域の医師会の先生方をはじめとする医療従事者、地域住民、行政の理解により様々な地域医療を守る取り組みを行った結果、徐々に医師が集まり始めた。2007年後期にはレジデントを含む内科医7名の常勤医師が在籍するようになり、病院にも徐々に活気が戻っている。

また2008年前期には域内の3つの公的病院の内科医総数は18名まで回復している。

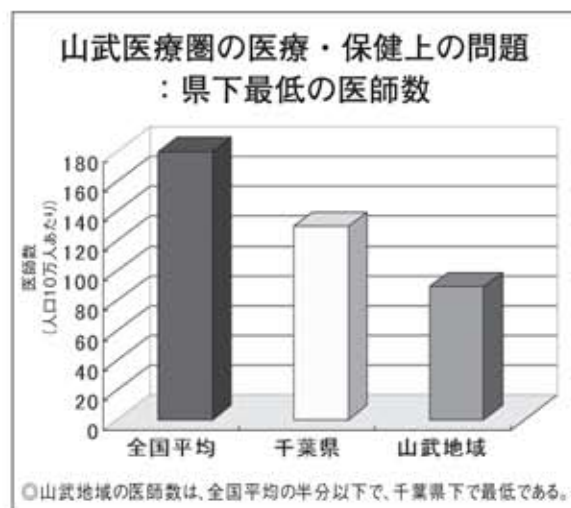
これらの取組みは全国の医学生・研修医の間でも注目を集めており、2008年5月から8月にかけて21名の見学者が東金病院を訪問し、地域で医師を育てる取組みを体験している。

## 【地域医療を支える

## 総合医・家庭医育成の取組み】

地域医療を担う地方の公的病院では勤務医の減少が顕著になっている。しかし今後は大学医局のみに依存した医師確保は困難であり、病院が自前で医師を育てる取組みが重要である。その中で、地域中核病院では細分化された診療分野別の診療に限定される内科系専門医よりも、内科疾患（あるいは小児科や皮膚科などの他科疾患を含めて）

表 3



を全人的に診療でき、より多くの患者を診療できる総合医・家庭医のニーズが高まると思われる。また「地域医療崩壊」は質の高い総合医・家庭医の配置で解決できるとの指摘もある<sup>②</sup>。つまり1961年に発表された成人1000人の健康問題の解決法によれば<sup>③</sup>、991人は地域の総合医・家庭医が総合的に対応すれば解決可能な医療問題であるというものである。絶対的な医師不足の情勢の中でほとんどの初期の医療問題は総合医・家庭医が解決し、必要であれば各専門医と連携して解決することが今後は重要となる。しかしわが国ではこのような地域医療を支える総合医・家庭医の育成システムの整備は欧米諸国に比較して大幅に遅れているのが現状である。今後は地域医療の確保の視点からも総合医・家庭医の育成のための教育研修体制の整備が急務である。

## 【千葉県立病院群での医師養成】

千葉県病院局は平成13年から千葉県内にある8つの県立病院が連携して病院群で研修医を受け入れるプロジェクトを開始した。平成16年から平成20年までに54名もの初期研修医が病院群で研修を行ってきた<sup>④</sup>。また平成18年から後期研修医の受け入れを開始し（千葉県立病院群レジデント制度<sup>⑤</sup>）、平成20年4月には千葉県病院局に所属する前期研修医19名、後期研修医29名の大所帯となっている。このレジデント制度の特徴は専門医取得までの身分が保障されており、専門医取得後は県立病院正規職員への道が開かれていることである。

## 【県立東金病院の医師育成の取組みとその成果】

千葉県立病院群に属する東金病院では大学医局が医師を引き揚げはじめる2004年以前より「地域で医師を育てる」取組みを開始している。日本内科学会および日本内分泌学会の教育研修拠点として整備を進め、日本内科学会認定医・専門医

# 施設紹介

(2003年度より) および日本内分泌学会専門医(2006年度より)を取得できる制度を立ち上げた。その後、様々な専門医・認定医を取得できることや地域医療を実践できることの魅力にひかれて東金病院には全国から若手医師が集まってきた。2006年前期には内科医2名まで落ち込んでいたが、2008年後期には内科医7名に加えて千葉県病院局所属の2名の前期研修医が研修を開始した(表5)。また2008年度から千葉大学の臨床的・クラークシップの学生実習を受け入れており、地域医療の現場で医学生は充実した実習を行っている。

さらに当院では千葉県立病院群・レジデント制度を活用して2007年度から日本家庭医療学会認定の後期研修プログラムを立ち上げ、総合医・家庭医を育成する取り組みを開始した。2008年7月から1名のレジデントがこのプログラムで研修を開始し、地域医療を担う医師を育成する取り組みの第一歩を踏み出した。

## 【総合医・家庭医プログラムの概要】

当プログラムは地域病院基盤型の総合医・家庭医(hospital-based family physician)養成コースである。当プログラムの中核病院となる東金病院

はITを利用した先進的な地域医療連携システム「わかしお医療ネットワーク」を構築し運用している(表6)。同ネットワークは病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーション等を含めた地域全体を広域電子カルテでつなぐ全国に例をみないユニークなものである。また病院や診療所の医師、薬局薬剤師等の緊密なヒューマンネットワークと相まって、インスリン療法の診療所への技術移転や循環型地域連携パスなど数々の成果を挙げ、地域医療の向上に貢献している<sup>(6)</sup>。

これらの成果をふまえ、本プログラムでは地域に構築した緊密な地域医療連携体制を、総合医・家庭医育成のための研修連携の基盤としてフルに活用し、研修医が家庭医療・地域医療を学ぶ最良の機会を提供して「病院単独」でなく「地域全体」で医師を育てることを目指している。

## 【総合医・家庭医プログラムの詳細】

①当プログラムの特徴の一つは東金病院と広域電子カルテ等で連携している診療所等で研修することである。3年間の家庭医療研修のうち、初期の1-2年間は主に病院研修となるが、週1日を当院近隣の診療所で研修し、訪問診療および外来

表4

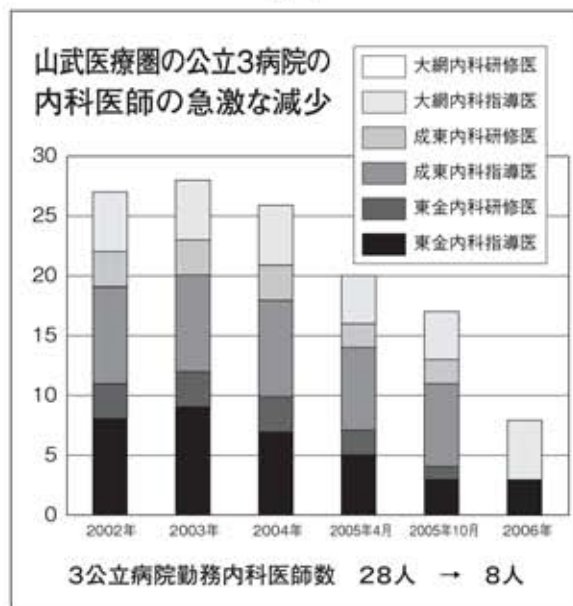
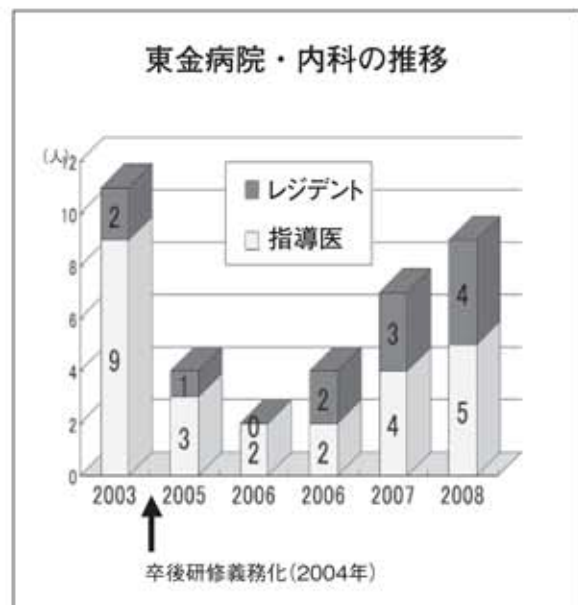


表5



## 施設紹介

診療を継続して行う（ワンデイ・バック方式）。  
 普段は診療所で診ている患者さんが急変した場合  
 には東金病院で受け入れ、レジデントが病棟担当  
 医の一員として加療し、病院での入院管理から診  
 療所での外来・在宅までの継続的な研修を重視し  
 ている（表7）。つまり本院が地域に向けて開放  
 病棟の形をとることでレジデントは一人の患者さ  
 んを継続的に診療でき、患者さんとの信頼関係  
 を築くことにもつながる。

②家庭医療研修後期（2・3年目）の診療所研修  
 では、研修初期にワンデイ・バック方式の研修を  
 行った診療所で6ヶ月間の研修を行い、地域にお  
 ける継続性も重視している（表8）。なお、本研  
 修プログラムに参加している地域の診療所は初期  
 臨床研修での研修協力施設として厚生労働省から  
 認定されており、診療所の指導医は研修医教育に  
 も熱心に取り組んでいる。

③初期の病院研修では総合医として幅広く研鑽  
 を積むとともに、将来内科のサブスペシャリティ  
 の専門医を取得することも考慮して、日本内科学  
 会認定内科医の取得を可能とする研修プログラム

表6

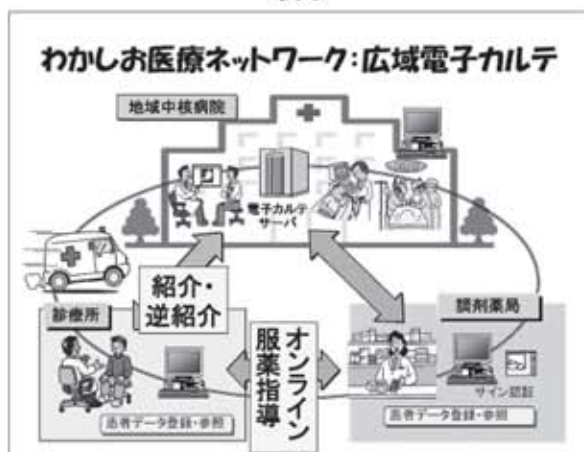


表7



表8

## 千葉県立病院群総合医・家庭医養成プログラム「わかしお」

	4月	7月	10月	1月	4月
後期研修1年次	内科研修	内科研修	内科研修	総合医研修	
	内科認定医取得をめざした内科分野の研修			東金病院	
	地域の診療所で訪問診療および外来診療を週1日通年で研修し、急変時は東金病院で受け入れ、主治医として加療することにより、入院から在宅までの継続的な研修を行う。				
後期研修2年次	総合医研修	総合医研修	小児科研修	診療所研修	
	東金病院		東金病院・東女医 山武医療圏の連携診療所 八千代医療センター・岡崎医院 ・小児科		
後期研修3年次	診療所研修	選択研修(※)	総合医研修	総合医研修	
	山武医療圏の連携診療所 ・岡崎医院		全国の連携診療所から1カ所選択 ・奄美大島南大島診療所(離島医療) ・茂原機能クリニック(総合診療) ・外房こどもクリニック(小児医療) ・国保藤沢町民病院(包括ケア)		東金病院

# 施設紹介

となっている。さらにリハビリ、精神科などの専門性を要求される研修については、千葉県立病院群の教育資源を活用している（表8）。このように本研修プログラムは、研修医の希望に沿って研修医一人一人に最適化した施設を複数の研修施設から選択することができるなど自由度が高く、テーラーメイドの研修が可能である。

④また本プログラムの特徴の一つに、地域住民がNPO法人「地域医療を育てる会」を設立し、「地域で医師を育てる」取り組みに積極的に参加していることも挙げられる<sup>(7)</sup>。具体的には、コミュニケーションスキル研修に、地域住民が医師育成ボランティアとして参加し、ミニレクチャー、グループ討論を通じて研修医のスキルアップを支援している。

本研修プログラムは、今後地域ぐるみで医師を育てる取り組みをさらに充実させることにより、病棟・外来・在宅医療を継続的に行うとともに、地域医療を守る総合医・家庭医を育てることを最大の目的としている（表9・10・11）。

## 【おわりに】

「どげんかせんといかん」が2007年の流行語大賞にもなった宮崎県知事の東原英夫氏は著作の中でこのように述べている<sup>(8)</sup>。「これからの自治体は地域力が問われている。21世紀は地方の時代、つまり地方から日本を元気にする時代だ。

（中略）過疎を逆手にとってパワーに換える発想が必要なのだ。」医療の世界でもへき地などの地方病院・診療所での医師の不足と疲弊が顕著である。しかし一方で地方には医学生や研修医などの若手医師をひきつける様々な資源もある。今後は若手医師がそのような場所で生き生きと働けるような支援体制・教育の場等が必要であり、それが中長期的には地域医療を支えることにもつながる。

また下記のように地域医療に関するWEBサイト<sup>(9)</sup>を立ち上げたので、ご覧いただきたい。

表 9

## 東金病院での主治医症例経験

2007年4月～2008年3月（筆者1名分）

疾患分類	計
内分泌・代謝疾患	28
呼吸器・アレルギー疾患	28
消化器疾患・その他	34
循環器疾患	16
血液疾患・感染症	10
腎・泌尿器・生殖器疾患	10
神経・筋・精神疾患	4
合計	130

症例は偏り無く豊富です

表 10

## 後期研修での1週間の流れ

	月	火	水	木	金	土	日
早朝	回診	回診	回診	回診	回診	回診	
午前	病棟	外来	病棟	診療所	外来		
午後	救急	病棟	救急	診療所	病棟		
夜間	症例 Cf	腎臓 CF	糖尿病 CF		内科 Cf		

週1回は診療所研修日あり

表 11

## 千葉県立病院群 総合医・家庭医養成プログラム 「わかしお」

—日本家庭医療学会認定 後期研修プログラム—

特徴-1：地域の中核病院と診療所が協働でたちあげた研修プログラムであり、医療連携を基盤に体系的に地域医療を研修することができる。

特徴-2：地域の診療所で、週1日通年で研修することにより、入院診療から診療所外来・在宅医療まで継続した診療を研修できる。

特徴-3：3年目で、離島医療、総合診療あるいは小児医療を担っている3つの診療所の中から一カ所を選択して研修する機会（3ヶ月間）あり。

## 施設紹介

## 【参考文献 / URL】

- 1) 地域医療を守れ - 「わかしおネットワーク」からの提案 平井愛山・秋山美紀著 岩波書店 2008 年
- 2) 折茂賢一郎：医療羅針盤「私の提言」, 新医療 22 : 22 - 25, 2008
- 3) White Kl et al: N Engl J Med 1961
- 4) <http://www.chibakenritsubyouin.jp/>
- 5) <http://www.chibakenritsubyouin.jp/resident/index.html>
- 6) 古垣齊拡ら：医師不足が深刻化する地域における新たな取り組み, 全国自治体病院協議会雑誌 47 : 92 - 96, 2008.
- 7) NPO 法人「地域医療を育てる会」<http://hello.ap.teacup.com/sodateru/>
- 8) 東国原英夫：知事の世界, 幻冬社新書 2008 年
- 9) 「地域医療を守れ」<http://www.furugaki.net/>



2008 年度ヨーロッパ医学教育学会・プラハにて

## 筆者プロフィール；

古垣齊拡（ふるがき なりひろ）

2001 年 3 月鹿児島大学医学部・医学科卒業。

2001 年 5 月より鹿児島生協病院で初期研修を行う。2003 年から 4 年間にわたり、鹿児島県・奄美大島で離島医療に従事した。2006 年 4 月、奄美医療生活協同組合・常勤理事、南大島診療所・所長。2007 年 4 月より千葉県立東金病院内科勤務。2008 年 4 月、千葉県立病院群・レジデント研修委員会委員（総合医・家庭医コース研修責任者併任）。地域医療における臨床、教育および臨床研究を今後も発信していきたい。

## 連絡先：古垣齊拡

千葉県立東金病院・内科・地域医療連携室  
〒 283-8588 千葉県東金市台方 1229 番地  
電話：0475-54-1531

MAIL：nfurugaki@hotmail.com

HP：http://www.furugaki.net

（筆者のサイトおよびブログ）

http://www.pref-hosp.togane.chiba.jp/

（東金病院のサイト）